



## 多職種連携の共通言語はフィジカルアセスメント！ ～患者状態や家族背景を共有しよう～

多職種連携チーム医療の中で、薬剤師のフィジカルアセスメント目的（薬物療法の副作用発見、効果判定）は、医師、看護師とは異なります。本講座では実症例を用いて問診、検査から診断、治療の考え方を学びます。薬剤師が医師の処方設計の過程を理解することで、安全で最適な薬物治療を目指した、よりの確な処方提案を可能にします。

開催日程	2022年4月10日（日） 10:00～16:00		
開催場所	本学 躬行館3階 T31講義室 及び オンライン		
受講料	5,000円	認定単位 G24 3単位	定員 対面 100名
申込受付	2022年2月9日（水）～3月28日（月）		
申込方法	ホームページよりお申込みください。 <a href="https://skc.kyoto-phu.ac.jp/">https://skc.kyoto-phu.ac.jp/</a>		
講師	JCHO京都鞍馬口医療センター 学校法人京都市育英館京都看護大学 医療法人橘会 東住吉森本病院 京都薬科大学 病態生理学分野 京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター	血液内科 医師 助教/がん看護専門看護師 薬剤科 主任 准教授・医師 講師 薬剤師・救急救命士	淵田 真一 先生 門田 典子 先生 佐古 守人 先生 細木 誠之 先生 今西 孝至 先生

時間	プログラム
10:00-12:00	<b>【I】フィジカルアセスメント総論</b> ～医師・看護師・薬剤師のフィジカルアセスメントの目的を知ろう～ 1) 医師のフィジカルアセスメント ・病態把握のための問診の仕方とポイント 2) 看護師のフィジカルアセスメント ・家族的背景、社会的背景に関する情報収集の仕方とポイント 3) 薬剤師のフィジカルアセスメント ・薬の適正使用につながるフィジカルアセスメント ・バイタルサインを測定する簡易な医療機器の使用法 4) まとめ 多職種の共通言語「フィジカルアセスメント」を薬剤師も行う
13:00-15:50	<b>【II】疾病の基礎</b> ～患者が示すバイタルサインと症候から処方を提案してみよう～ 1) よくみる症候から診断・治療への考え方 ・医師はこう考える「症候学の理論」 ・臨床推論力を身につけよう「診て触れるだけで、ここまでわかる患者の状態」 ・看護師はどこに注目する「よくみる症候に対する看護」 2) <SGD>症例検討から処方設計へ
15:50-16:00	全体を通しての質疑応答、講評

※プログラム内容等は変更される場合があります。

【重要】COVID-19の状況により、開催日、会場、定員、実施方法等に変更が生じる可能性があります。最新情報、詳細は必ずホームページ（<https://skc.kyoto-phu.ac.jp/>）をご確認ください。

